

事後評価調書

【道路事業】

一般国道 372 号

社・野村河高こうたかバイパス

県土整備部

土木局 道路街路課

事後評価調書

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 嶋田 博文 (国道・橋梁班長 江指 真祐)	内線	4362 (4378)
------	-------------------	---------------------	---------------------------------	----	----------------

事業種別	道路事業	事業名	一般国道 372 号 社・野村河高 ^{こうたか} バイパス
------	------	-----	--

事業区間	加東市木梨 ^{かとうしきなし} ～河高 ^{こうたか}
------	--

事業期間	計画 (再評価時)	社 BP : H16～20 年度 野村河高 BP : H 8～24 年度	事業費 (内用地補償費)	計画 (再評価時)	社 BP : 14 億円 (7 億円) 野村河高 BP : 51 億円 (14 億円)
	実績	社 BP : H16～22 年度 野村河高 BP : H 8～24 年度		実績	社 BP : 13 億円 (5 億円) 野村河高 BP : 54 億円 (14 億円)
完了年月	社 BP : 平成 22 年 12 月 野村河高 BP : 平成 24 年 12 月	過去の評価	社 BP : H15 年度 新規評価 野村河高 BP : H17 年度 再評価 H22 年度 再評価 (2 回目)		

事業目的	事業内容
<p>国道 372 号は、播磨地域と丹波地域を結ぶ約 100km の主要幹線道路であり、阪神大震災時には臨海部幹線道路の代替ルートとして機能した。</p> <p>しかし、当該区間には幅員狭小、線形不良及び歩道未整備区間があるなど、交通の隘路となっている。</p> <p>○交通混雑の解消、安心安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地に流入する通過交通をバイパスに転換することにより、市街地内の交通混雑の解消、交通事故の削減等を図る。 <p>○円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該区間には複数の直角曲がりの交差点や幅員狭小区間があり、これらを解消することによって、自動車の円滑な交通を確保する。 <p>○緊急輸送道路の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国自動車道や国道 175 号と一体となった広域的な道路ネットワークを形成することにより、災害時における緊急輸送道路の強化を図る。 	<p>【全体延長】 5,100m</p> <p>社 BP : 2,800m (山国工区 530m、田中工区 750m、整備済区間 1,520m)</p> <p>野村河高 BP : 2,290m</p> <p>【構造規格】 第 3 種第 2 級 (平地部)</p> <p>【計画幅員】</p> <p>社 BP : (2 車線+両側歩道) 車道 6.5m [全幅 16.0m]</p> <p>野村河高 BP : (2 車線+両側歩道) 車道 6.5m [全幅 17.0m]</p> <p>【計画交通量】 社 BP : 10,000 台/日</p> <p>野村河高 BP : 12,200 台/日</p> <p>【現況交通量】 社 BP : 8,953 台/12h (H28.7.12 実測)</p> <p>野村河高 BP : 8,673 台/12h (H28.7.12 実測)</p> <p>【負担割合】 国 55%、県 45%</p>

●事業概要図

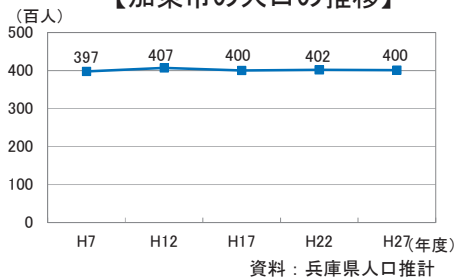


●事業を取り巻く社会経済情勢等の変化

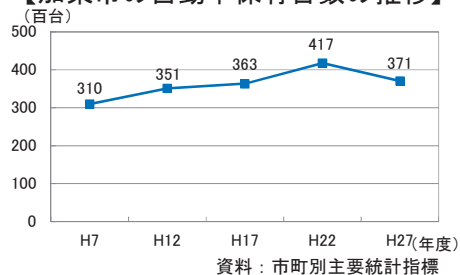
①人口、自動車保有台数の推移

- ・加東市の人口は概して横ばいであるが、自動車保有台数は増加傾向である。

【加東市の人口の推移】



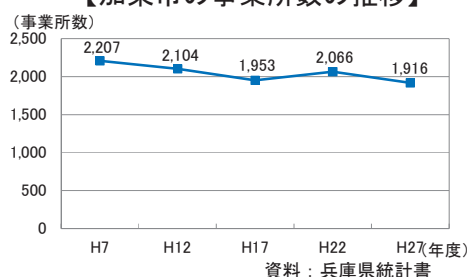
【加東市の自動車保有台数の推移】



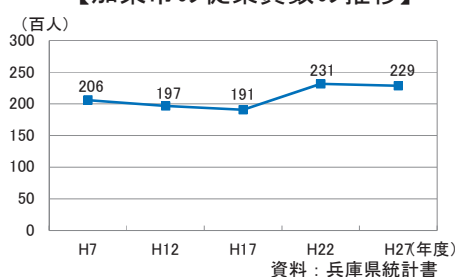
②事業所数、従業員数の推移

- ・加東市の事業所数は減少傾向であるが、従業員数は増加傾向である。

【加東市の事業所数の推移】

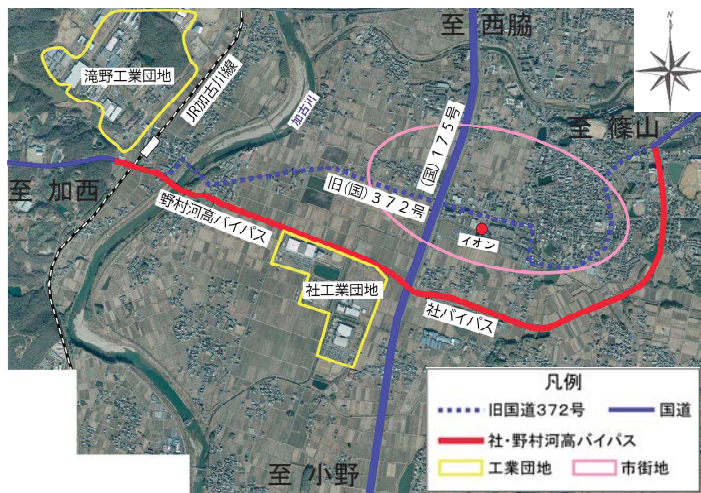


【加東市の従業員数の推移】



③周辺の土地利用状況

- ・社・野村河高バイパス周辺は、社工業団地（昭和58年～）と滝野工業団地（昭和63年～）が立地している。



社工業団地

県土地開発公社の土地区画整理事業により造成された工業団地で、現在4社が操業中です。
全体面積 45.6ha
工業用地面積 31.7ha(全区画分譲済み)
進出企業 パナソニック㈱、パナソニックエコテクノロジーセンター㈱、㈱リコー、富士通周辺機㈱



滝野工業団地

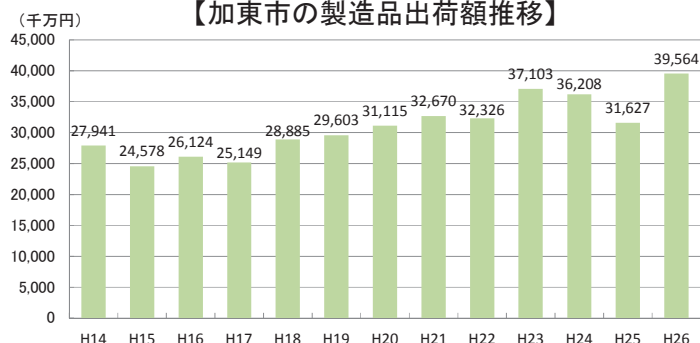
県土地開発公社・市(旧滝野町)の土地区画整理事業により造成された工業団地で、現在14社が操業中です。
全体面積 84.5ha
工業用地面積 51.3ha(全区画分譲済み)
進出企業 エースコック㈱、㈱アライドダイヤモンド、古林紙工㈱、凸版印刷㈱、積水成型工業㈱、三和機工㈱、立井電線㈱、王子チヨダコンテナ㈱、IDEC㈱、エスケー化研㈱、凸版物流㈱、㈱トッパンDKレーベル、アスカカンパニー㈱、稲坂油圧機器㈱



④製造品出荷額等の推移

- ・加東市の製造品出荷額等は、増加傾向にある。

【加東市の製造品出荷額推移】



●事業の効果の発現状況

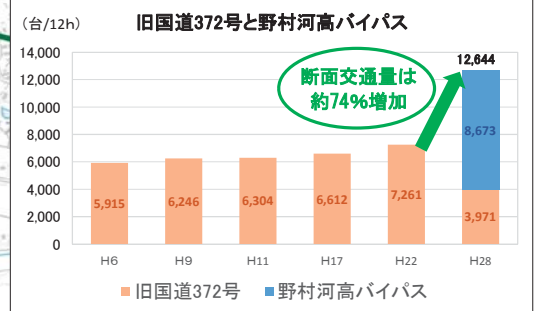
想定した整備効果及び整備後の状況

【直接効果】 1. 交通混雑の解消、安心安全の確保

(1) 交通混雑の解消

- ・社・野村河高バイパスの供用により、旧国道 372 号の全体交通量が約 45%減少。そのうち、大型車交通量は約 75%減少し、通過交通や大型車はバイパスへ転換。
- ・旧 372 号と野村河高バイパスの断面交通量が約 74%増加。

【社・野村河高バイパスの 12 時間交通量の変化】



資料：交通センサス (H6~H22)
H28 実測値

ヒアリング調査結果

●旧国道 372 号の変化について

加東市役所:旧国道 372 号を通行する大型車が減ったため、福田橋をはじめ幅員狭小部などでの混雑が起きなくなった。



加東警察署:旧国道 372 号の交通量が減ったため、緊急車両の走行性が上がった。



社 高 校:教職員の通勤の際、旧国道 372 号が混雑しなくなり快適に走れるようになった。



神姫バス株式会社:福田橋西側の混雑が発生しなくなったので、バスの定時性は非常に良くなった。

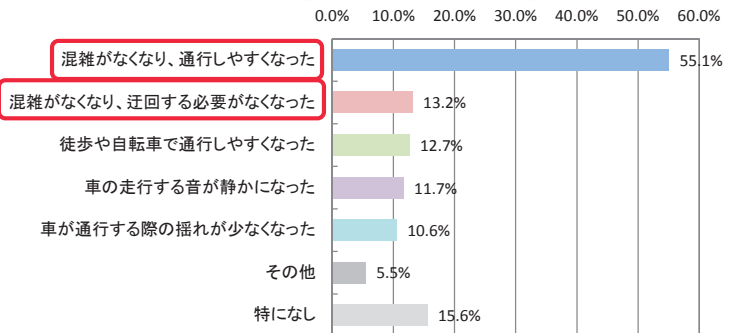


資料：ヒアリング調査結果 (H28. 8 月実施)

アンケート調査結果

設問内容：旧国道 372 号の交通量が減少したことで、良いと感じることは何ですか

【対象地域住民 615 世帯】



資料：沿道住民アンケート調査 (H28. 7~8 月実施)

旧国道 372 号福田橋付近



H17. 8 月撮影

H28. 8 月撮影

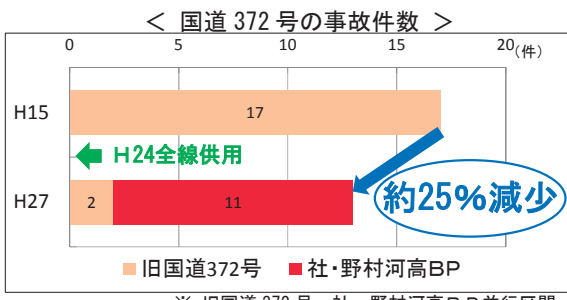
想定した整備効果及び整備後の状況

【直接効果】 1. 交通混雑の解消、安心安全の確保

(2) 交通安全性の向上

・ 通過交通の転換により、バイパス・旧国道 372 号の合計交通事故件数が約 25% 減少。

【 旧国道 372 号と社・野村河高バイパスでの人身事故件数の変化 】



※ 旧国道 372 号：社・野村河高 B P 並行区間
資料：加東警察提供

旧国道 372 号 松尾交差点付近 (写真①)



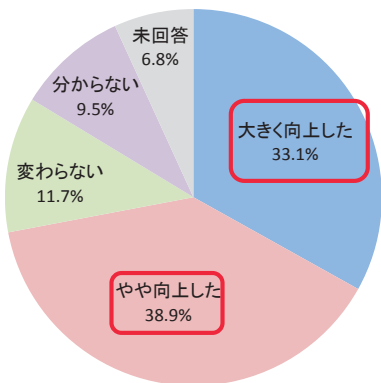
社バイパス 加東市役所付近 (写真②)



アンケート調査結果

設問内容：社・野村河高バイパスが整備されて、対象地域を走行するうえで安全性は向上しましたか。

【対象地域住民 615 世帯、道路利用者 250 人】



【具体の声】



・ 歩道の幅が広いので、通勤、通学の時間帯は、特に安心して運転できる。
(加東市在住、50 代女性)



・ 車道の幅員が広く安心感がある。
(加東市在住、60 代男性)



・ 野村河高バイパスは、直線的で見通しが良い。
(加東市在住、40 代男性)

資料：沿道住民アンケート調査 (H28. 7~8 月実施)
道路利用者アンケート調査 (H28. 8 月実施)

想定した整備効果及び整備後の状況

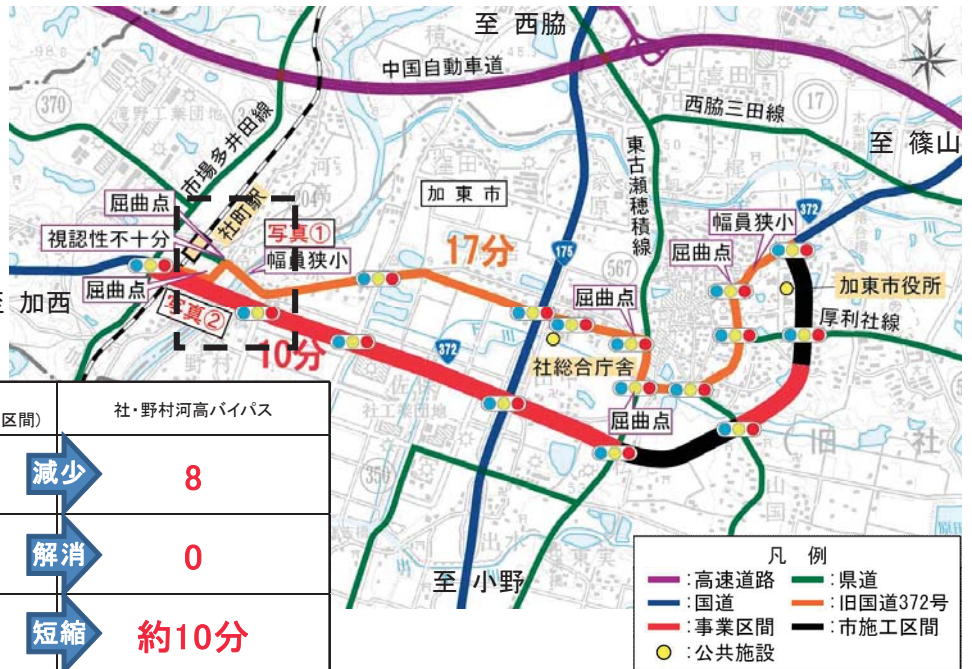
【直接効果】 2. 円滑な交通の確保

(1) 移動時間の短縮・走行性の向上

- ・全線開通により加東市街地の外環状道路ネットワークが形成され、市街地通過車両の移動時間が短縮。
- ・全線開通前は、複数の直角曲がり交差点や視認性の悪い交差点、幅員狭小区間を走行する必要があったが、社・野村河高バイパスの整備により走行性が向上。

【社・野村河高バイパス、旧国道372号の道路状況】

< バイパス開通前 福田橋付近 >



	旧国道372号 (社・野村河高バイパス並行区間)		社・野村河高バイパス
信号交差点数	10	減少	8
屈曲点 (信号無交差点含む)	5	解消	0
所要時間	約17分	短縮	約10分

資料：H22 再評価 (野村河高 BP) H9 交通センサス・H28.7 実測値 (社 BP)

旧国道372号 福田橋 (写真①)



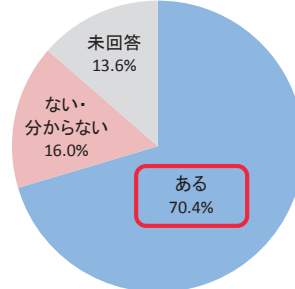
野村河高バイパス 加東大橋 (写真②)



アンケート調査結果

設問内容：社・野村河高バイパスが整備されて、移動時間は短縮しましたか。

【道路利用者 250 人】



【具体の声】



- ・加西市方面等、バイパスを利用して行く目的地までの到着時間が読みやすくなった。
(60代男性)
- ・歩道が整備されており、歩行者に対する事故のリスクが少なくなった。
(40代男性)
- ・道が混まないのスムーズに移動できる。
(20代女性)

資料：道路利用者アンケート調査 (H28.8月実施)

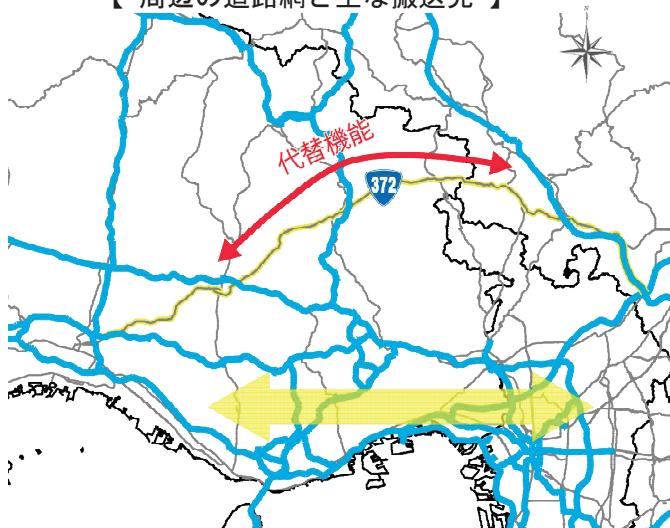
想定した整備効果及び整備後の状況

【直接効果】 3. 緊急輸送道路の機能強化

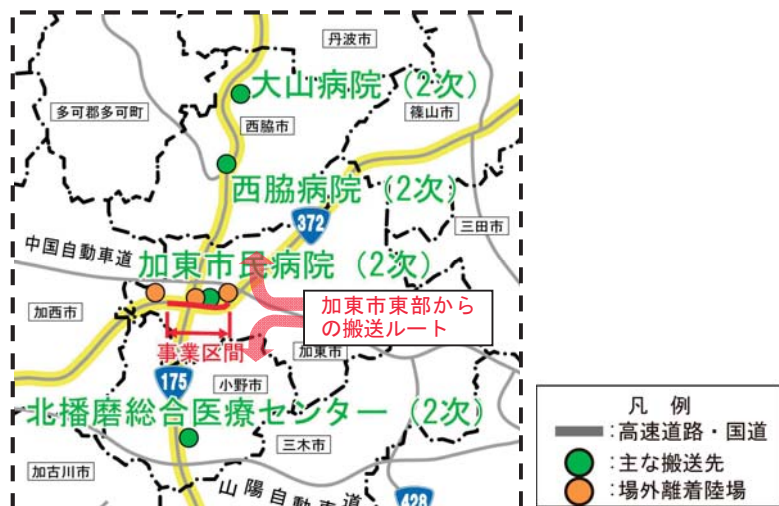
(1) 緊急輸送道路ネットワークの強化

- ・ 国道 372 号は、中国自動車道と共に東西交通の代替機能を担っており、阪神大震災時には阪神地域の代替道路として機能。
- ・ 南海トラフ地震等の大規模災害時において、臨海部幹線道路（国道 2 号、阪神高速等）の東西交通が寸断された場合に備え、緊急輸送道路としての走行性、信頼性が向上。

【周辺の道路網と主な搬送先】



(2) 地域の救急医療搬送ルート機能向上



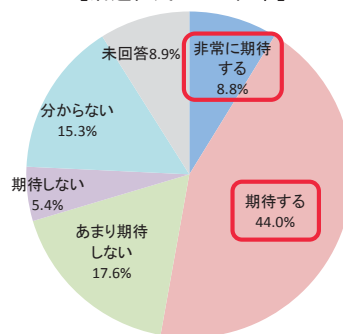
- ・ 北播磨医療圏では、救急医療機関が国道 175 号沿線に多数立地。
- ・ 社・野村河高バイパスの整備により、加東市内から国道 175 号へのアクセス性が改善され、救急医療搬送ルートの機能向上が図られた。

アンケート調査結果：

社・野村河高バイパス供用に伴う主要効果

設問内容：社・野村河高バイパス開通による地域の発展に期待していますか。

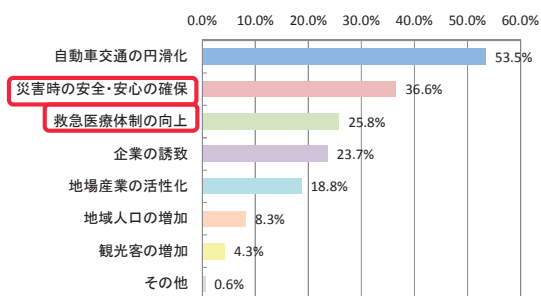
【沿道住民：615 世帯】



N=325

【内訳】

(複数回答可)



資料：沿道住民アンケート調査 (H28. 7～8 月実施)

ヒアリング結果

- 加東消防署
- ・ 場外離着陸場に着陸したドクターヘリから搬送を引き継いだ場合、社・野村河高バイパスを通行できるため、国道 175 号に抜けるまでの搬送ルートを選択肢が増えた。
 - ・ 加東市東部より三木・小野方面へ搬送する際、混雑を避けるため社バイパスの市施工区間や細街路等を経由して国道 175 号まで抜けていたが、社バイパスから国道 175 号へと利用することが多くなった。



資料：ヒアリング調査 (H28. 8 月実施)

想定した整備効果及び整備後の状況

【間接効果】 1. 物流環境の改善・向上

- ・従前は滝野工業団地や加西市の物流拠点から滝野社 IC（高速ネットワーク）にアクセスする場合、主に市場多井田線を利用していたが、整備後は野村河高バイパスを利用するルートに変化している。（15→11分）
- ・これにより、物流事業者の時間効率の改善、輸送時における事故のリスクやドライバーの負担の軽減に繋がっている。

【 運送業の利用ルートの変化 】



ヒアリング・企業アンケート結果

大手運送会社A(加西市物流拠点)



- ・加西市東部や国道 175 号を利用する場合には、社・野村河高バイパスを必ず利用する。
- ・中国自動車道の滝野社ICを利用する際は、野村河高バイパスを通して、市道を北上して滝野社 IC まで行くルートを使用している。
- ・時間の短縮に加え、事故のリスクやドライバーの負担軽減に大きく寄与していると実感している。

大手運送会社B(加西市物流拠点)



- ・野村河高バイパスは、混雑もほとんどなくスムーズに移動できるため、時間短縮も図られている。
- ・時間短縮が図られたため、わずかではあるが業務の前倒しによる効率的な輸送が可能となった。
- ・旧国道 372 号のように住宅が密集していないので歩行者等が少なく、非常に安全であると感じている。

滝野工業団地企業 A



- ・運送便の到着、帰着時の時間が安定した。

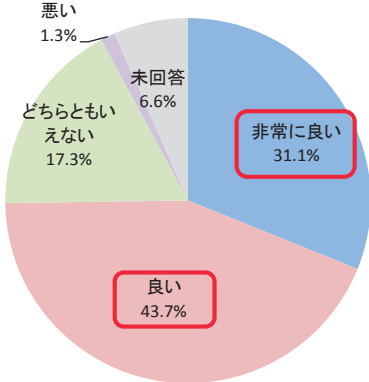
資料：ヒアリング調査（H28. 8 月実施）
 企業アンケート調査（H28. 7 月実施）

想定した整備効果及び整備後の状況

(参考) その他アンケート調査結果

設問内容：社・野村河高バイパス整備についてどのように感じておられますか。

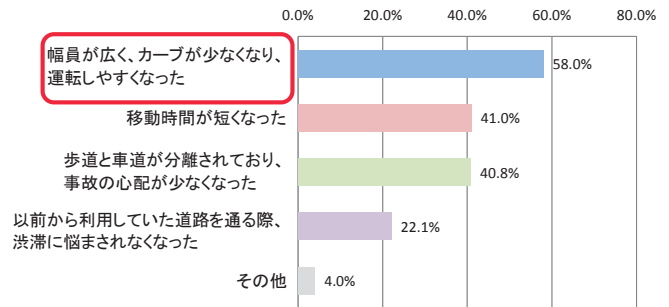
【沿道住民 615 世帯、道路利用者 250 人】



N=647

【内訳】

(複数回答可)

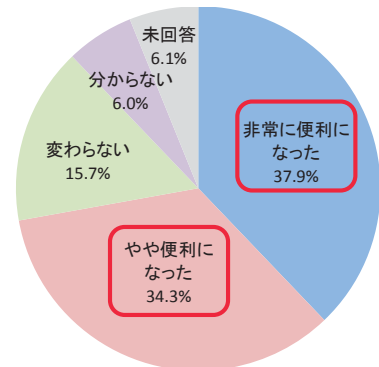


整備について良いと感じている方の半数以上が、走行性の向上を実感している

資料：沿道住民アンケート調査 (H28. 7~8 月実施)
道路利用者アンケート調査 (H28. 8 月実施)

設問内容：社・野村河高バイパスが整備されて便利になりましたか。

【沿道住民 615 世帯、道路利用者 250 人】



【具体的の声】



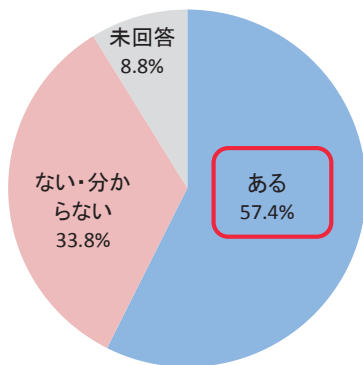
- 大きな混雑が発生しないので、快適に利用できる。
(60代女性)
- 旧国道 372 号よりカーブが少なく、加西方面へ行くのに便利になった。
(加東市在住、70 歳以上男性)
- 旧国道 372 号は通るのが怖かったが、今は安心して利用できる。
(加東市在住、50 代女性)

約 72% の人が、社・野村河高バイパスが整備されて便利になったと感じている

資料：沿道住民アンケート調査 (H28. 7~8 月実施)
道路利用者アンケート調査 (H28. 8 月実施)

設問内容：開通前と比べて行きやすくなったと感じられた場所がありますか。

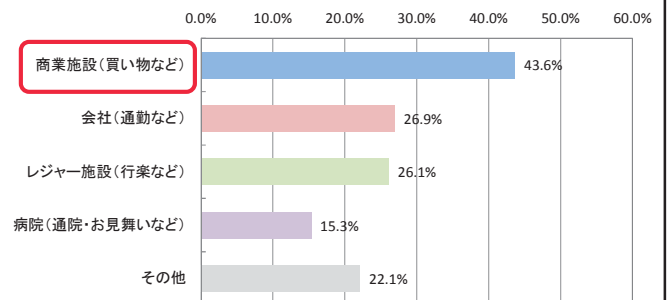
【沿道住民 615 世帯】



N=353

【内訳】

(複数回答可)



行きやすくなった場所がある人の約 44% が、商業施設へ行きやすくなったと感じている

資料：沿道住民アンケート調査 (H28. 7~8 月実施)

● 事業実施による周辺環境への影響

○ 屈曲部解消による大気質の改善

屈曲部は、車両の停止・発進を伴うため、排気ガスの発生が多くなる。バイパス整備により屈曲部を解消したため、地区全体としてわずかではあるが、大気質の改善につながっていると思われる。

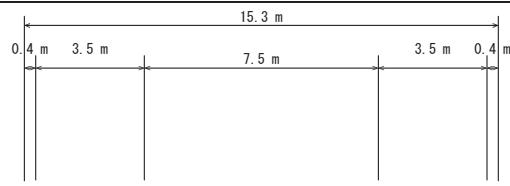
● 特徴的な取組み

○ コスト削減の取組み

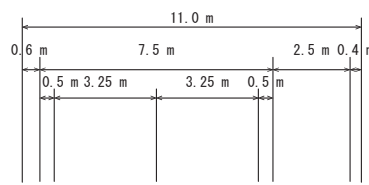
【加東大橋の自転車歩行者道計画見直し】

投資効果の向上とコスト削減を図るために、既設の福田橋における自転車歩行者の利用状況を把握し、福田橋の側道橋も合わせて活用することにより、加東大橋以西の自転車歩行者道計画の見直しを行った。

その結果、加東大橋の自転車歩行者道を両側整備から片側整備に変更することで、当初計画から約6億円のコストを削減できた。



見直し変更



野村河高バイパス開通式典



○ 地域とのコミュニケーション活性化支援

【野村河高バイパス開通式の実施】

平成24年12月2日に、野村河高バイパスの全線開通に伴い、開通式を開催した。式典には、多くの地域住民や工事関係者が参加し、親柱銘板披露やテープカットを行った。

また、式典参加者の加東大橋の渡り初めを行った。

● 改善措置の必要性

○ 国道175号からバイパスへの誘導

国道175号とバイパスの交差部は立体交差となっているのに対し、旧国道372号とは平面交差となっている。

国道175号(南北方面)から東西方面へ向かう交通の一部が、視認しやすい旧国道175号との平面交差点から流入するため、そのまま旧国道372号を走行している。このため、国道175号からバイパスへ誘導する案内看板の設置などの対策について、関係機関と検討を進めている。

国道175号との立体交差部



国道175号との交差部航空写真



● 同種事業の計画・調査・事業実施のあり方、事業評価手法の改善等

○ 効率的な部分供用の実施

社・野村河高バイパスは、用地取得の難航に伴い約16年間に渡る事業期間となった。用地取得が完了した3工区を順次供用し、早期の整備効果発現に努めた。バイパス事業の効果は全線供用後に発揮されるが、本事業のように延長の長い事業については、例えば、整備効果の高い工区等を先行して供用を行えるよう、用地交渉を進めることが望ましい。

○ 社バイパス

【事業着手時】

総事業費 C=14 億円
 事業期間 H16～H20
 計画延長 L=2,810m
 計画幅員（2車線+両側歩道）車道 6.5m [全幅 16.0m]

【H22年度（事業完了）】

総事業費 C=13 億円
 事業期間 H16～H21
 計画延長 L=2,810m
 計画幅員（2車線+両側歩道）車道 6.5m [全幅 16.0m]

○ 野村河高バイパス

【平成 17 年度（再評価）】

総事業費 C=52 億円
 事業期間 H8～H22
 計画延長 L=2,290m
 計画幅員（2車線+両側歩道）車道 6.5m [全幅 17.0m]

【平成 22 年度（再々評価）】

総事業費 C=51 億円
 事業期間 H8～H24
 計画延長 L=2,290m
 計画幅員（2車線+両側歩道）車道 6.5m [全幅 17.0m]

【平成 24 年度（事業完了）】

総事業費 C=54 億円
 事業期間 H8～H24
 計画延長 L=2,290m
 計画幅員（2車線+両側歩道）車道 6.5m [全幅 17.0m]

社・野村河高バイパス整備の流れ

